

文学研究科入試問題 解答例・出題意図

地理学地域文化学領域 <博士課程前期課程・正規学生(一般)>

【専門外国語科目】

■解答例

(1)の要約においては、本問の最重要タームである「invention of tradition」を「創られた伝統」(ないしはそれに類する言葉)と翻訳し、イギリスの食文化が海外からの多様な影響を受けながら今日に至っているというその内容を整理して記述することを求めている。

また(2)では、たとえば「和食:日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されているといった事例を挙げながら、その食文化が実際には「創られた伝統」である可能性について、何らかの例を踏まえて言及されている必要がある。

■出題意図

本問では Panikos Panay(2010)『Spicing up Britain: the multicultural history of British food』の一部を利用した。同書は歴史学者の手になるものではあるが、地域文化としての食文化の生成や変化という本領域での研究対象と密接に関わる内容となっている。本質主義的な文化理解ではなく、ナショナリズムとも結びついた「創られた伝統」という術語の意味を理解できるかどうかという点を、基礎的な英語力の有無とともに確認することを目的とした。さらに(2)の設問では、受験者が文化事象についてどのような知識を有しており、それをここで提示した英文の内容といかに結びつけて説明できるかという点に主眼を置いている。

【専門基礎科目】

■解答例

(1)では2つの語群[X][Y]からそれぞれ2つずつ選択し、その語について説明してもらいたい。たとえば[X]のa.「伝統的建造物群保存地区」であれば、1970年代(正確には1975年)に文化財保護法の改正によって歴史的な集落・町並みの保全が制度化されたこと、市町村による指定の上で国のよる選定を受けた場合には「重要」が冠されること、現在では全国で120カ所以上が重要伝統的建造物群保存地区に選定されていること、当該地区において住民の意思の統一が容易ではないことといった諸要素のいくつかに言及し、その用語についていかに理解できているかを示す必要がある。

(2)では人文地理学や周辺分野である文化人類学、民俗学などの文献を選択し、その内容や書誌情報を適切に整理して示してもらいたい。

■出題意図

(1)と(2)のいずれも、受験者が専門書を通じて専門的知識をいかに学び整理できているかを確認することを目的としている。特に(1)では、語群に含まれるいずれの語も基礎的なものと言えるが、まずは得意な用語を選択してもらい、その解答の巧拙を知りたいということもある。

【専門科目】

■解答例

同問では4つの語群から2つを選択して詳述することを求めている。たとえば①「脱工業化と現代都市の変容」であれば、まずは近代都市の成立・成長の基礎となった工業の展開について言及した上で、1970年代前後からの先進国における脱工業化の動向に触れる必要がある。そして、他の国々に拡散した生産部門を統括するグローバル企業のヘッドクォーターが集積する東京のような世界都市がさらなる成長を遂げていく一方で、それ以外の工業都市の多くは衰退し、新たな産業をめぐって都市間競争を展開しているといった状況を説明してもらいたい。

■出題意図

本問は、専門基礎科目の(1)と同様に用語説明を求めるものであるが、さらなる長文をもってその内容を適切に詳述できるかどうかを問うている。つまり広範な知識と文章作成能力の双方を確認することを目的としている。